

## 2014 年度 小委員会活動成果報告

(2015 年 2 月 13 日作成)

小委員会名	建築生産小委員会	主 査 名：戸倉健太郎 就任年月：2011 年 5 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築社会システム委員会	委員長名：石坂公一 主 査 名：
設 置 期 間	2014 年 4 月 ～ 2018 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建築生産に関する技術・技能、制度上の諸問題を広く研究・議論する</li> <li>・ 建築生産シンポジウム、建築生産セミナー等開催の企画・運営</li> <li>・ 今年度活動計画 7 月 建築生産シンポジウム開催 11 月 建築生産セミナー開催</li> </ul>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有 【小委員会】戸倉健太郎 (主査、三井住友建設)、浦江真人 (東洋大学)、安藤正雄 (千葉大学名誉教授)、金森茂 (大京アステージ)、蟹澤宏剛 (芝浦工業大学)、佐々木晴夫 (大成建設)、志手一哉 (芝浦工業大学)、曾我行雄 (フジタ)、多葉井宏 (竹中工務店)、稗圃成人 (鹿島建設)、平野吉信 (広島大学)、古阪秀三 (京都大学)、持田泰秀 (立命館大学)、森岡徹 (大林組)、山本勝義 (清水建設)、【WG】吉田敏 (産業技術大学院大学)、山本英雄 (大成建設)、嘉納成男 (早稲田大学)、斎藤隆司 (日本郵政)、崔彰訓 (東京理科大学)、山崎雄介 (清水建設)、吾川正明 (京都大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	建築技術調査WG：建築生産の最新技術に関する情報収集、分析を行い、小委員会のテーマに反映させることを目的として設置。	
2013 年度予算	70,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： <a href="http://news-sv.aij.or.jp/keizai/seisan/">http://news-sv.aij.or.jp/keizai/seisan/</a>

項 目	自己評価
委員会開催数	10 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	1. 第 30 回建築生産シンポジウム (2014 年/31、8/1 機会工具会館ホール) 参加者数 80 名 (資料名)「第 30 回建築生産シンポジウム論文集」 2. 2014 年度建築生産セミナー「建築生産の 30 年—新旧超高層建築施工事例に見る技術の進化—」(2015 年 1/27 建築会館会議室) 参加者数 60 名 (資料名) 2014 年度建築生産セミナー「建築生産の 30 年—新旧超高層建築施工事例に見る技術の進化—」
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 建築生産シンポジウム：建築生産の様々な分野の研究者・実務者からの最新の研究成果、事例報告の発表を通じて情報交換、意見交換を行った。第 30 回の記念として「建築生産の 30 年そしてこれからのために」と題し特別セッションを設け、30 年を振り返るとともに今後のあり方について PD を行い好評を博した。 2. 建築生産セミナー：開催時期が計画とずれてしまったが、シンポジウム特別セッションの関連企画として超高層建築生産技術の進化について 4 名の実務者に講演をいただいた。普段あまり聞くことのできない貴重なお話を聞くことができ、聴講者のアンケート結果も好評であった。聴講者数も昨年を上回る数であった。
委員会活動の問題点・課題	1. 催し物の企画・運営以外の委員会内部での研究活動の充実を図る。 2. 小委員会への若手研究者の参加推進。

\*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

\*表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。